

電流伝送SiC MOS FETパワーIVC基板

No.267

記事と同じパターン・基板サイズ

第1.0版	2020年 1月 17日	初版
第1.1版	2020年 5月 27日	V1.1基板追記

本解説書、ならびに掲載されている、基板・回路他の一部あるいは全体を無断使用することはできません。
Copyright(C) 2008 M.H. All rights reserved.

ご注意・お願い

本基板を使った工作には、感電、火災等の恐れがあります。
十分なご注意を持って、ご自身の判断で組み立てをお願い致します。
当方は、一切のトラブルに対して責任を負いませんのでご了承願います。

また、説明書やホームページの写真は組み立て参考例として掲載しております。性能や音質を保障するものでは無いことをご承知願います。
使用される部品や、回路の変更に関してもご自身の判断にて行うようお願い致します。

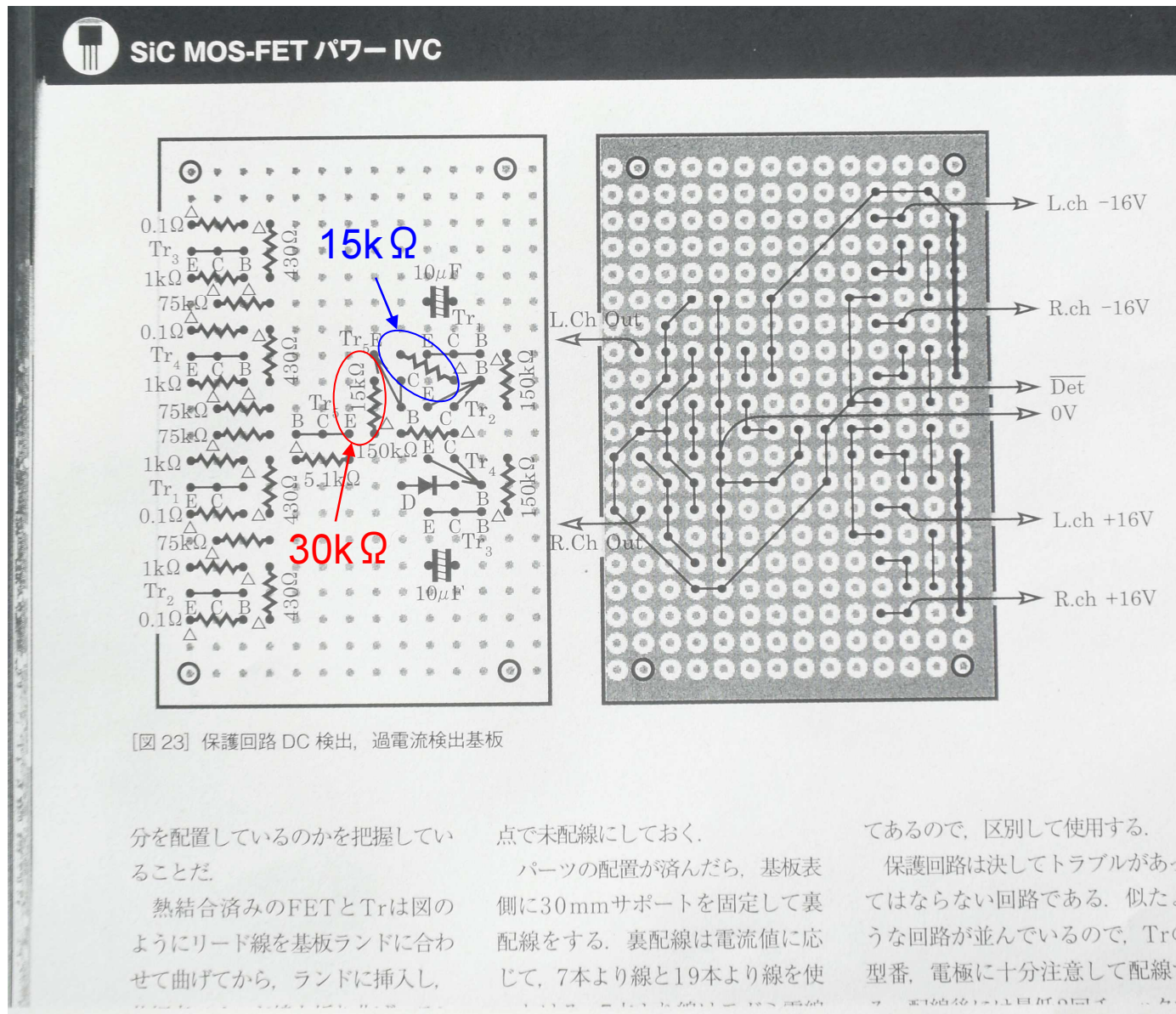
**本基板は、金田明彦氏および誠文堂新光社様の許諾を得て記事と同じパターン、基板サイズとしております。
一部または全体を無断で第三者に対して使用する事、転用するは出来ないことを承知願います。**

基板組み立て

記事を参照に組み立て調整願います。

- ・基板部品配置・パターンは記事の通りとなっています。
記事の図で点線(ジャンパー接続部)は基板ではパターン化していますので配線は不要です。部品をはんだ付けするだけで、回路は完成します。
パターン・シルクが記事と異なるところがある場合には、誤記修正済みですのでこちらを優先願います。
- ・信号取り出し位置は、記事の通りとなるようシルクを目安に印刷していますので参考にしてください。
- ・基板サイズ・ねじ穴位置も記事と同じになっています。シャーシ加工は記事に従ってください。
- ・記事のパターン以外の誤記は、次ページ以降の修正に従ってください
基板も保護回路に一カ所(-16V)パターン漏れがあります。ジャンパー願います。

記事修正 赤青の追記が正しい(回路図の通り)抵抗値です
 Corrections of misprints MJ2019/11 No267 amplifier
 Red and Blue is correct



[図 23] 保護回路 DC 検出, 過電流検出基板

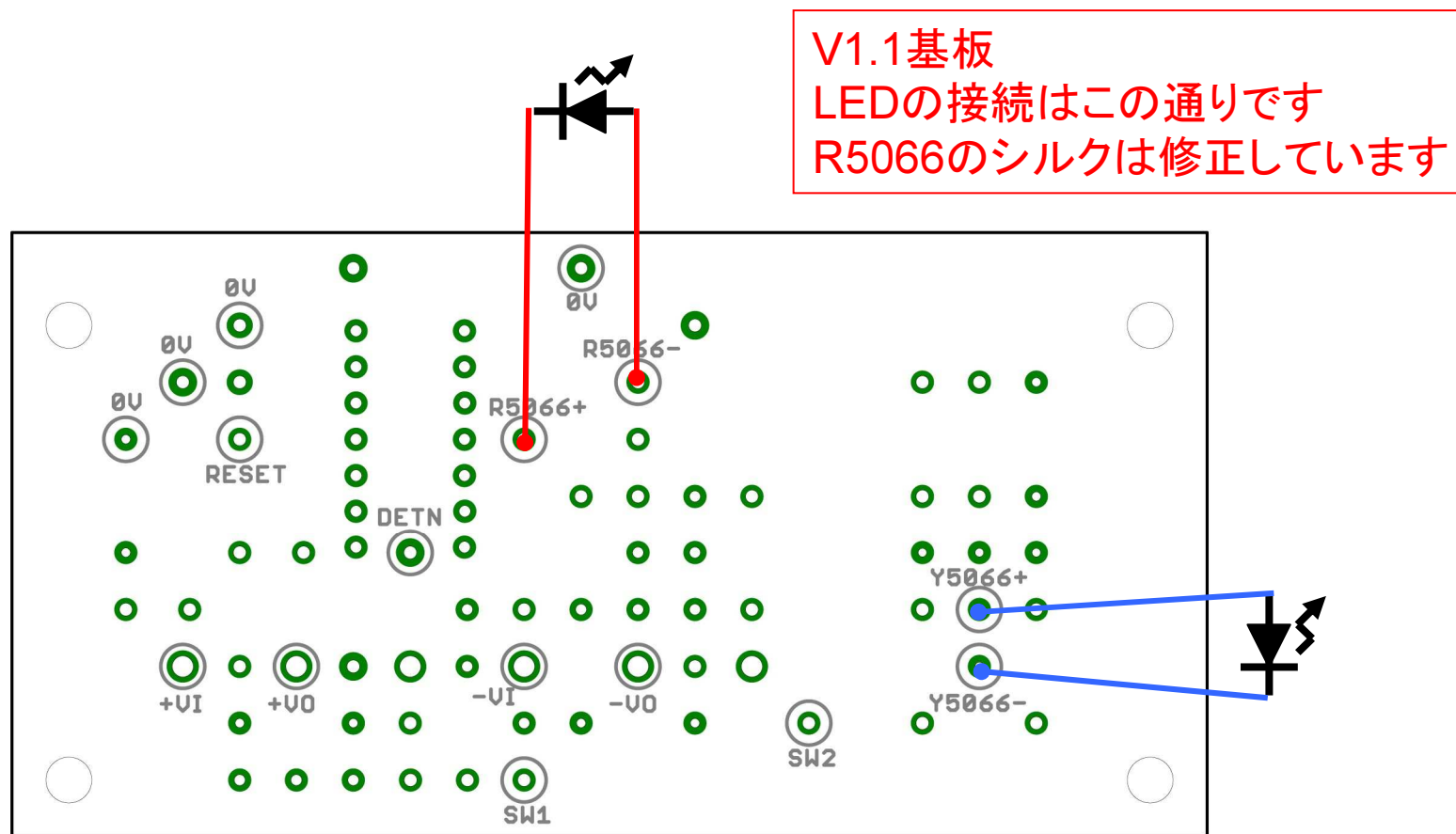
分を配置しているのかを把握していることだ。
 熱結合済みのFETとTrは図のようにリード線を基板ランドに合わせて曲げてから、ランドに挿入し、

点で未配線しておく。
 パーツの配置が済んだら、基板表側に30mmサポートを固定して裏配線をする。裏配線は電流値に応じて、7本より線と19本より線を使

てあるので、区別して使用する。
 保護回路は決してトラブルがあつてはならない回路である。似たような回路が並んでいるので、Trの型番、電極に十分注意して配線す

記事修正 赤青の追記が正しい配線です。
Corrections of misprints MJ2019/11 No267 amplifier
Red is correct

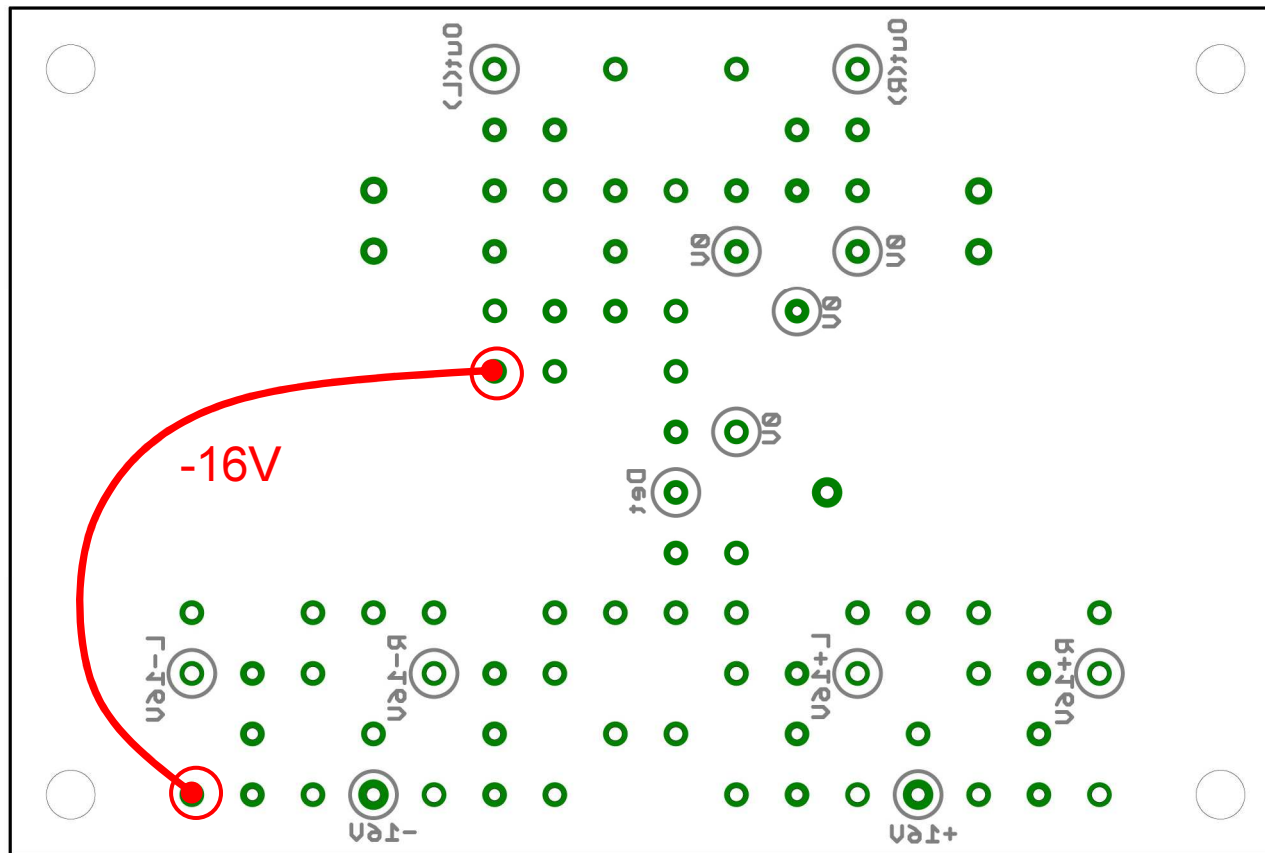
記事の通りのシルクなのでミスがあります。下図のようにLEDを配線してください。
There is a mistake because it is the silk according to the article.
Wire the LEDs as shown below.



修正 赤青の追記が正しい配線です。
MJ2019/11 No267 amplifier
Red is correct

V1.1基板
このジャンパー線は不要です
基板パターンで接続済みです

パターン漏れ -16V接続 下記の赤丸を基板裏で接続願います
PCB mistake connect -16V



追加された出力段電源コンデンサ位置

表

50V10 μ F~47 μ F

裏

